

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム つかさの家
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	寝屋川市仁和寺本町2-3-5
記入者名 (管理者)	管理者 小林 喜久江
記入日	平成 20 年 1 月 5 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念 1、利用者の意思と人格を尊重しその尊厳を守ると共にあくまでも利用者中心の生活支援のあり方を追求し「地域と共に生きる社会」の実現に努めます。 2、利用者の心と心のふれあいを基本とし心豊かな生活を求めていくために支援します。 3、利用者には、社会の一員として真心を持って対等な立場に立ち人格尊重に根ざした主体性・自立性を重んじ安全で安心した生甲斐のある明るく楽しい生活をおくるために支援します。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎朝の申し送り時に、全員で唱和し理念を共有し、実践している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や地域運営推進会議時を活用し理念を理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	ごく近隣の方には理解されていると思うが定期的に広報誌を発行し配布するなどさらに、行政機関、市社協校区福祉委員会、自治会等を通じて事業の実態をきめ細かく広範囲に亘って浸透するよう努力したい。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・毎朝の散歩・買い物時に声を掛け合い、ホーム前の清掃などを行い日常的な付き合いが出来るように努めている。 ・気軽に立ち寄って頂いている方もあるが、立ち寄って頂いていない方々にも良い関係は築けている。	○	今以上に良い関係を築けるように努めたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域自治会に加入していて、季節ごとの行事・催しなど、福祉委員会からも年間行事や月1回の活動にも参加させてもらい地元の方々と交流している。	○	今後も地域の行事に参加し、高齢者との交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いはしているが具体的には取り組めていない。	○	・地域の高齢者との交流を深め合っていきたい。 ・自宅介護者に対しての介護相談など受けていきたい。 ・事業所での介護研修、実習を実施するなど地域に貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・各々の記録を全員が確認しサインを入れる。 ・自己評価・外部評価からの評価を活かし改善に取り組んでいる。(記録形式を変更し、利用者の状況や職員の行動が一目で把握できるようにした。)		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・毎月の定例会議を主に運営に関する事項、ケアに関しての事項を検討、入居者個々の状況、サービスに対する意見を共有し、サービスの向上に活かしている。 ・運営推進会議においては、当施設の現状を報告し、率直な意見を頂き日常に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・高齢介護室・社会福祉課・地域包括センターとの日々サービスに関して常に話し合っている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・入居以前の問題として、話し合ったが利用するに至らなかった。 ・成人後見人制度を活用している入居者があるので折々話している。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・当施設ホームは施設が最小限(一般家庭で行っている範囲)にとどめており精神的虐待がないよう努めている。	○	職員間で良いケアを目指し、お互いが注意できる関係が維持できています。今後も見過ごさないよう努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入居に関しては入居前面接を十分に行い利用者、家族の要望・不安や疑問に十分説明し理解・納得し契約される。</p> <p>・その他の契約は入居時・面会時を利用し理解・納得できるよう努めている。</p> <p>・解約に関しては、契約に反する事柄が生じた場合に双方が納得して行うよう努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・月1回のモニタリングを実施、会議で話し合い運営に活かしている。</p> <p>・玄関に苦情箱を設置、意見を入れてもらっている。</p> <p>・入居者が意見等を表し易いように担当者を決めている、担当者は意見に耳を傾け他の職員及び外部者に報告し運営に反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・定期的には毎月末締めで預かり金の収支報告を行っている。それとともに1ヶ月間の生活状況、主治医からの指示や健康に関すること、暮らしぶりなどを管理者が手紙を書き、受け持ち職員がお便りを入れる場合もある。また、入居者が機能回復される道程を家族にお知らせするために毎月入居者の作品(塗り絵・手紙)を同封しているケースもある。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族が入居者を訪問された際や家族会または電話等で家族からの希望、意見を聴取し、日々の生活運営に反映している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・日誌に記録・毎朝の申し送りで意見、提案を聞き、即反映できることは実行し、熟慮の必要がある場合は月例会議にて話し合い、職員の意向を出来るだけ運営に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・次月の希望を募り職員の私生活も考慮し、入居者へケア不足にならないように調整し勤務表を作成。再度全員が確認し納得を得て実行している。</p> <p>・アクシデントにより、勤務変更が必要な時はで職員の協力を得て調整している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・常に利用者第一とし、職員の定着を重視、馴染みの職員の離職を最小限に止めるよう個人的に理由を聞き処遇改善も考慮する。</p> <p>・止むを得ず退職者が出た場合入居者に迷惑が掛からないよう職員でカバーし新たな職員確保の手段をとる。</p>	<p>○</p> <p>1名の離職者があると職員全員に負担がかかる。募集による人材の確保が困難になっている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・職員個々の能力に応じ研修を配分、参加の機会を設けている。</p> <p>・当施設内の年間計画により個々に異なった内容でレベルアップに努めている。</p> <p>・資格取得にサポートしている。</p>	<p>○</p> <p>研修で得た知識・技能を現場で十分活用したい。今後は虐待、権利擁護、苦情処理など、より専門的な知識の習得が課題である。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・管理者サイドでは他市グループホームとの交流を図り内容の充実・向上に努力している。他施設を見学し意見交換も行っている。</p> <p>・幹部研修者の受け入れを1回おこなった。今後も実施を予定している。</p>	<p>○</p> <p>現在の交流を今後も継続したい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・職員同士の食事会を設けたり、お茶の時間をとり、コミュニケーションと親睦を図るよう努めている。</p> <p>・入居者とともに外出を企画した場合には、職員も楽しめるように配慮している。</p>	<p>○</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・研修会に参加・専門誌の購入し知識・技能の習得援助・業務に関しては、レベルを考慮、気持ちよく遂行出来るよう配慮、向上心を持てるように努める。</p>	<p>○</p> <p>研修へ参加し習得した内容をGHで発表、皆で研鑽、共有しレベルアップしていくよう努める。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>先ず見学していただく。ご本人又はご家族の求めておられる生活について聞かせて頂きながら、当方の説明等をする。、ご入居に迷いがあれば納得がいくまで相談、面談を受ける。入居の意思が決定すれば、ご入居に至るまでに訪問面談を行い本人、家族とも、2、3回話し合う機会を設け出来る範囲で要望を受容する。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご入居を希望されるケースではご本人の意向より家族の強い要望で話が進むことが多い。家族の立場は理解しやすくその身になって受け止め、自身の経験を通じて話すため信頼関係が築かれ入居後も継続されている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず見学してもらい、会話の中から必要な支援を見極めサービス内容を説明する。その上で決定する。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本入居前に体験入居してもらおうケースもある。 ・家族から本人の性格や特徴などの情報提供をしてもらい、すでに入居者がおられる場合は、皆さんが集まる場を活用しリラックスできる雰囲気作りをし馴染み易いよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	強制はしないが掃除・調理等を行い、レクリエーション・趣味の時間を設け共に学んだり支えあったり、楽しんだり、時には智慧を戴いたりする関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時・家族会時・毎月の情報提供時を利用し暮らしぶりを正しく伝え家族と喜怒哀楽を共にし一緒に本人を支えあう関係を築いている。	○	家族の協力を望めない方もあるが寂しさを最小限にするように職員が努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・生活暦により家族から信頼を失っている入居者には、本人と家族との信頼関係の復活・よい関係を築いていけるよう支援している。 ・面会が昼食時の場合はホームの食事を共に食して頂く（居室に運び家庭生活の再現）ゆったりと本人との時間を過ごして頂く。 ・訪問時湯茶を居室に持参し話がしやすいよう心配りをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居以前から関わりを持っていたCM、訪問ケアスタッフ、自治会長などに連絡を取り継でもらっている。 ・時には外出・外泊をして頂きよい家族関係の維持を支援する。 ・馴染みの関係にある方の面会も途切れないよう支援している。		
31	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・昼夕食時の同席、毎朝の散歩、昼食前の体操、レクリエーションや趣味の時間を作り入居者同士が関わり合えるよう努めている。 ・生活暦を異にした夫々の入居者を理解し居心地のよい場づくりの提供に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービスが終了しても相談にのったりして人間同士の付き合いを維持している。退所後ボランティア活動で来訪されている。 ・体験入居された方で自宅生活を継続されている方とは時折電話連絡しよい関係を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回のモニタリングを実施して本人の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は本人の意思を尊重し無理強いはいしない。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報提供、主治医から紹介状、CMからの情報等を元に生活環境や本人の能力(精神面も)を把握し初期計画に活かす。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各自の「水分摂取量」「排泄表」「見守り表」や管理日誌やチャートで総合的に把握するよう努めている。	○	職員は学習を続けより深く物事を把握できるよう努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために本人・家族・必要な関係者と話し合い意見を反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の変化や、それに伴う入院等で変化が生じた場合は、現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のチャートに経時的に日々の様子やケアの実践、結果、気づき等を記録し、情報を共有しながら実践している。</li> <li>・スタッフ記録と管理者記録を行っているが自己表現を読み取り自己決定までの心理面なども記録するよう努め日々活かしている。</li> </ul>	○	日々の記録が大切であるが充実した内容にする為には時間を要する。 そのために工夫をしながら続けていきたい。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の行事を催したり、法人が運営している知的障害児童事業との交流を図ったり地域との関わりにおいて、その時々々の要望に応じた柔軟な支援をしている。</li> <li>・退所された方との交流も続けている。</li> </ul>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徘徊者があり警察に、火災防止に消防署、福祉・民生委員には地域密着維持のため連携を密にし自治会等のボランティアにも協力をいただきながら支援している。</li> </ul>		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営にあたり疑問点などが生じれば地域・それ以外の信頼する サービス事業者 CMと話し合いを行い支援している。</li> </ul>	○	他のサービスを試みたが介護保険の適用上、地域性もあり困難であった。(訪問リハビリ・デイサービス等)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在2件のケースにおいて地域包括センターと信頼関係を維持しつつ電話での話し合いを多く持ち、時には立ち寄り協働している。</li> </ul>		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人・家族の要望により入居以前からの主治医に定期受診している方がある。</li> <li>・当方のかかりつけ医との関係は非常によく月1回の定期往診、内服薬処方、インフルエンザ予防接種、入居者の変化に即相談・対応可能で適切な医療が受けられている。</li> </ul>	○	高齢者にとって医療機関との連携はとても大事な要素で当方の入居者様は恵まれていると思います。 今後も現状を維持できるよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・1名の入居者は4週に1回専門医に受診を継続中。</p> <p>・他の入居者には主治医の診察で現在では専門医の受診を必要とする症状がない。何らかの症状・変化があれば専門医を受診できる体制は整っている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・職員に看護職を配置し毎日2回のバイタルサイン測定1日の水分摂取量・排泄の内容をその都度表に記録する等日常の健康管理に努めている。</p> <p>・看護師は認知症ケア学会において研修・研鑽し他との交流で習得した内容をケアに活かしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・提携病院とは常日頃から連携を深めておりどんなことをも相談でき入院が必要な時は受け入れてもらえる体制作りが出来ている。</p> <p>・入院生活は不安が生じるため当方の職員が毎日顔を出し好物を持参することもある。洗濯物はホームに持ち帰る。入院期間においては家族を交えた話し合いの上急性期のみ入院としてもらっている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居時に家族の終末期に対しての要望を聞いておく。</p> <p>・昨年ターミナル化の懸念が生じた。家族は以前から“入院せずホームで終末期を迎えたい”との希望であった。家族の意向をDrと職員とで協議を重ね受け入れることになり全員で方針を共有し実施した。(現在は回復されている。)</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・今後重度化するであろう入居者に対して日々の生活が豊かに送れるよう努めている。入居者各々の希望、家族の意向を踏まえて今後の変化に迅速に行動できるようホームとしてのあり方を検討している。(かかりつけ医・スタッフで)</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替が必要となった時は、管理者と本人・管理者と家族で繰り返し話を重ね職員とも情報交換し希望を持って住み替えができるよう努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会話をする時は入居者の尊厳を守り声がけにも注意している。 個人情報の守秘義務を職員に徹底し、個人情報の管理も職員は認識している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者を弱者として支援しない。 入居者各々の意思の表出がし易い雰囲気作りをして入居者が希望を表出し易いように配慮し自己決定し、安定した生活を営めるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	原則としてホームの日課に沿って暮らしてもらっているが、個々人のペースを守りながら生活できるよう支援している。 他人との交わりを嫌う人は広い共用スペースでTV新聞を見ているなど自由に過ごしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・身だしなみを確認のため洗面所の大きな鏡の前で、自ら整えるよう支援するが、できない方には衣服を整え結髪の援助など行う。 ・理容・美容は店に同行するが希望に応じ、スタッフが行ったりする。 ・家族の協力を得てその人らしい身だしなみができるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者全員が食事を楽しみにしている。量、質ともに申し分ない食事を提供している。月1回は全員で外食、好みのものを注文、週1回はリクエスト料理・1回は入居者が主体、スタッフは手助けのお好み焼きをし皆が楽しく過ごす。 下膳、テーブルを拭く人、食器洗いを手伝う人と、職員と共に食事全体を楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好に関してはコーヒー・紅茶・抹茶など。 おやつは頂き物を消化する事が多い。ない時は入居者と手作りする。 焼酎・ワインは不眠時に少量をオンザロックなどで飲まれている。	○ 当ホームは火災予防の為居室での喫煙は禁止している。 現在喫煙者はいない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自力でトイレにいける人には、声かけや見守りで支援している。 各人の排泄パターンを把握、排泄表をチェックの上尊厳を守った誘導を行っている。	○	今後も継続する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として毎日入浴ができる。夜間入浴も可能。 入浴日・時間を希望に合わせて準備してもその時に入られないこともありタイミングを合わせ支援することは難しい。出来るだけスタッフが合わせての入浴になる。 その折には入浴を楽しみ、喜ばれる支援している。	○	利用者の身体状況が夫々であり希望に合わせられないことがある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	健康管理の一環として、昼食後は居室で休息し。夕食後から就床時間までは 興奮しないよう静かに時を過ごし時には温かいお茶を飲んでもらい就眠に導く。夜間は巡回をし安心して気持ちよく眠られるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の行事を催したり、外出などで気晴らしの支援をしている。 生活歴、個々人が有している特技など趣味の時間を利用し楽しんでもらっている。 軽作業(調理・他の家事手伝い。園芸など)など自然に役割分担が出来て生活の活性化に繋がっている。	○	入居者の方の生き生きした姿を今後も見守り続けたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域の祭りなどでほしい物を選び自分でお金を払い楽しめるよう支援している。 近くのコンビニエンスストアが開店したため、お金の使い方を実践している。 お金を使う喜びを味わいストレス解消している入居者もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	恵まれた環境で庭が広く屋内だけで生活する事が少ない。 毎朝の散歩には自然豊かな道を選ぶ。その折、近隣の方とふれあう事ができる よう支援している。 朝参加できない方や車椅子利用者には近くを散歩出来るよう努めている。	○	一人一人の希望による外出はできるだけ実施しています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・月1回の外食・年間2回は遠方へのお出かけを計画している。 ・神戸ポートアイランドの「花鳥園」に行く等、普段は行けない所へ行った。その折、職員と入居者の半数は公共の交通機関を利用した。 ・家族のお迎えで外出・外泊をする入居者もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話(ダイヤル)支援、自書の手紙を投函依頼されることもある。家族から信頼を失い入居されている場合には関係の修復に電話や手紙での交流を支援し関係の構築に努めている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームのオープン化を前提としており何時でも気軽に訪問していただけるようにしている。訪問されたときはゆっくりして頂けるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の意思を尊重し身体拘束しないケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はせず夜間のみ施錠。 日中は自由に庭に出て過ごす入居者もある。玄関、ダイニングやリビングからも何時でも庭に出られる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に危機意識を持ち利用者の所在や様子を把握し、危険防止に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時より居室には危険につながる物品はおかず職員が管理する。調理補助ができる方には包丁を使ってもらっているが管理は職員。工作时など鋏を自由に使用しているが管理は職員。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケア会議において個々に対しての事故防止を話し合い予防策を全員で共有し取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署指導で職員は救命救急の講習を受け急変がある場合の対応に備えているが定期的に訓練は出来ていない。 職員の緊急連絡網を作り備えている。	○	定期的訓練を行うように努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の方などの協力が得られるよう入居者をよく知ってもらえるよう交流、母体の月輪学院と合同での訓練を行っている。 避難場所・避難経路の掲示を確認しながら入居者と職員で災害時等に備えて月に1回訓練している。	○	現在の協力体制をより協力得られるよう日常の付き合いの中から働きかけを続ける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては家族と話し合い長期的な内容にもふれ説明し支えているので抑圧感のない暮らしができていと思う。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタルサインのチェック、異常時は時間を空けて再測定を行い、一人一人の変化の早期発見に努め、異常時は速やかに対応できるように日頃から対処方法を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Drが処方したくすりの内容について目的・効果・副作用・用法・用量を記録し職員に開示し共有している。症状の変化を確認しDrと連携し変更時は申し送り等で伝達している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常に自然排便を心がけ水分摂取・繊維の豊富な食事・運動等を管理、日常生活の中で配慮しているが、内服薬による便秘もあるためDrと相談の結果浣腸し排便を促すことや緩下剤を使用することもある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝のケア・毎食後おやつ後・外から帰ったときなどは紅茶でうがいする。口腔内の異常発見すれば歯科受診。義歯の取り扱いができない方への援助も行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・栄養のバランス(管理栄養士の献立)水分摂取量をチェックし確保できるよう支援する。食事介助水分摂取介助を行う場合もある。当ホームでは疾病予防のため水分(食事以外)1日量を1300cc以上必ず摂取している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の講習に参加した職員が全員に伝達しそれを元に対応している。冊子に綴じてあり必要時に確認する。大阪府からの感染マニュアルも保存し何時でも利用可能である。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はほぼ毎日新鮮な品が届く。冷蔵庫内は毎日点検し清掃している。各食事の片づけの終りに台所の清掃・調理器具を熱湯消毒・食器は食洗器にて洗浄等を行い衛生管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に親しみのある環境を維持し何方でも出入りを可能にしている。安全維持のためにチャイムを鳴らしてもらっている。玄関にはスロープがあり靴を履いたり脱いだりするための椅子が用意されている。“理念”が掲げられ意見ボックス設置し観葉植物を置いている。玄関フローアは広く訪問者に安心感を与えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりした共用空間は季節ごとに模様替えをして利用者・来訪者に居心地よく過せるよう工夫している。不快な悪臭を最小限にするよう工夫し間接照明で直接太陽光線を防ぎ不快な音のないよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はソファがあり過ごしやすい場所でボランティアが利用したり、家族会行事やレクリエーションや体操にも利用。楽しい場としても活用できる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり使い慣れたものや好みのものを持参してもらっている為、各部屋は本人や家族の好みの物が置かれ画一的なものはない。装飾は本人が作成したものなどを展示しており自分の居場所として安心して居心地よく過ごされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	四季を通じ起床すると窓を開放し(エアコンを使用時は切る)外気を入れる。夏場は空気の流通をよくするよう窓を開放しエアコンを最小限利用する。冬は湿度を保つため加湿器を置く部屋・濡れタオルを使用する部屋もあり状況に応じこまめに対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動動作の要介助者の居室が 2Fにあり見守りが十分できないなかで本人は、自由に行動するために安全確保が難しい。職員全員で検討し危険を最小限に留める工夫(扉をかえたり危険物を除去)をしながら本人の希望である“九州へ帰る”ことを目標に自立支援に取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のわかる力が異なり全員で行動するときに混乱を来すことがある。一人一人をよく理解し自立支援が出来るよう、環境づくりをし無理のない支援を心掛けている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	親しみやすい庭には四季折々の草花をみなで育てる。庭はリビングやダイニングから常に眺めることができる。リビングやダイニング前のタイルのアプローチでは鉢植えの花を常設、焼肉パーティなども行いまた近い将来には野点も楽しみたい。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

**【特に力を入れて取り組んでいる点】**

- 職員と入居者が協力し一緒にグループホームホームを作っているところ（家庭という感覚を持ち続けていただくように）
- 地域の人々とともに、社会の一員として生甲斐のある生活が出来るように、地区自治会・福祉委員会の季節の行事に参加し交流させていただいている。
- 食の楽しみが満足できる取り組み、日々のメニュー以外に赤飯・おすし・入居者中心で作るお好み焼き・リクエスト料理など提供している。  
（日常は管理栄養士のメニューで食材を届けてもらい調理している）
- 外食の機会を設け、社会の一員としての自覚を持ち、各自で注文し非日常的な食事を満喫し充足感を得て生活の活性化を図っている。
- 年2回は入居者、家族(希望者)職員との外出を企画、昨年は神戸ポートアイランド「花鳥園」に行った（入居者・職員の参加者半数は公共機関を利用した）

**【アピールしたい点】**

入居者・職員ともに個性が強く、年齢も若年から高齢者までと色々だが一人ひとりが目標を置き日々取り組んでいる。